

第 10 回 稲門建築会特別功労賞 松本洋氏 (苗 31)



表彰理由：

1929 年、京都の国際会議でロックフェラー 3 世と松本重治氏（松本洋氏の父）が会い、
培われた深い友情と信頼が、敗戦後に国際文化会館の誕生に結ばれた、と会館 50 年史の冒頭
に記述がある。財団法人の専務理事として長く会館運営の軸心で活躍された重治氏の没後、松
本洋氏は、常務、専務、顧問として、会館の存続に父君の遺志を継ぎ尽力されている。国際文
化会館建築の保存再生が、今年度日本建築学会賞・業績賞と通知された。この保存再生に関して、
松本洋氏が豊かな人脈の交流を通して、広い視野から最善の解決策を求め、献身的に英知の結集
を図られた、隠れた功績は大である。会館会員の検討集会、日本建築学会の保存要請への対応、
国際文化会館検討諮問委員会の招集、設計監修の関与等、私自身の見聞からも、松本氏の固
かな尽力には再三の感銘を受けている。国際文化会館保存再生事業の功労者として、松本洋氏を
稲門建築会特別功労賞に強く推薦する次第です。

(推薦者：阪田誠造)

◎経歴：

- 1958 年 英国マンチェスター大学 都市計画大学院修了
- 1959 年～1971 年 日本道路公団
- 1971 年～1979 年 (財)国際開発センター 主任研究員
- 1978 年～1990 年 (財)国際協力推進協会 専務理事
- 1990 年～2004 年 (財)国際文化会館 常務理事、専務理事
- 2004 年～ 同上 顧問・理事
- 1966 年～現在 外務省・農林水産省等の委員会委員、
公益法人理事・評議員、
学校法人理事・評議員稲門建築会を歴任



ピラミッドにせまる住宅地 1976 エジプト

国際文化会館保存再生

東京国際文化会館 11-116
久米大二郎・齋藤 敏・小池 敏彦・塚谷 秀嗣 阪田 誠造・小林 正康・寺川 憲博
* 建築設計：(株)松本洋建築設計事務所



国際文化会館は、日本を代表する建築家、阪田誠造、松本洋氏が
建築設計した歴史的建造物である。1950年代に建設された
この建物は、戦後日本の国際交流の中心地として、多くの
国際会議を開催してきた。しかし、経年劣化による老朽化
が進み、保存再生の必要が生じた。松本洋氏は、この建物の
歴史的価値と現代的ニーズを両立させるための保存再生策を
立案し、建築設計した。このプロジェクトは、歴史的建造物の
保存再生の模範例として、国内外で高く評価されている。



交り番この水汲み 1978 バングラデシュ

主な得意先 国際
建設面積 1,000㎡
建築費 約 1,000万円

